

章	2	ともに学ぶ、文化とふれあいのあるまち
大項目	01	生涯学習、スポーツの推進
施策	02	開かれた学校づくり

目的

児童、生徒や地域の実態を踏まえた教育活動を行い、適切な学校運営を行うため、地域に開かれた学校づくりを積極的に推進します。また、国際的視野を持ち、我が国や諸外国の伝統や文化についての理解を深め、進んで国際社会に参加する態度を養います。

対象・手段

対象：地域、子ども

手段：学校評価（自己評価・外部評価）の公表や学校情報の公開を積極的に行います。また、学校評議員制度により、地域の意見を学校運営に反映させていきます。

小中学校に外国人指導員を配置し、国際理解教育の推進します。また、外国人児童・生徒に対し日本語指導等の適応指導を行います。

施策の方向

保護者や地域がともに学校をつくる仕組みづくりを推進し、児童、生徒や地域等の実態を踏まえた、教育活動と適切な学校運営を行っていきます。

国際社会に生きるため、児童・生徒に国際的視野を持たせ、コミュニケーション能力などを育成します。

成果指標

指標名		定義		目標水準		
自己評価の公表率		小、中、養護学校全校における自己評価の保護者・地域へ結果公表率		(平成19年度に)	(100%)の水準達成	
外国人英語指導員を活用して英語教育の推進に取り組む学校数		区内小中学校全校中の実施校数		(毎年度に)	(全校)の水準達成	
				()年度に	()の水準達成	
施策の達成状況						
		単 位	平成16年度	平成17年度	平成18年度	備 考
施策 成果 指標	目標値1	%	0.00	100.00	100.00	17年度統廃合により2校減になっています。
	実績1	%	0.00	57.14	90.40	
	目標達成率1 = /	%		57.14	90.40	
	目標値2	校	43.00	41.00	41.00	
	実績2	校	43.00	41.00	41.00	
	目標達成率2 = /	%	100.00	100.00	100.00	
	目標値3					
	実績3					
	目標達成率3 = /					

主な取組み

- 開かれた学校づくり(学校評価の実施、学校評議員制度の運営)
- 日本語適応指導
- 小学校国際交流学習
- 外国人英語教育指導員の配置

課題

学校は学校公開等を積極的に行うのみならず、区民から学校運営等について適切な評価を受けるため、学校評議員の活性化と、自己評価・外部評価を含む学校評価制度を総合的に検証する視点が必要です。
 国際理解教育の推進においては、小学校で外国人交流が定着していることから、日常的に児童と接する担任の英語に関する指導力の向上や発育段階に応じた英語教育指導体制の研究を行う必要があります。

評価

総合評価	
学校評価については、外部評価の公表が全学校で実施されるなどの成果をあげています。また、学校公開や情報公開の積極的な活用や学校評議員の導入による地域の意見を学校運営に反映させる制度が着実に定着し、地域に開かれた学校づくりに成果を挙げてきました。 子どもを国際性をもった豊かな人間として育てるために、国際理解教育の推進を図り、併せて外国人児童・生徒に対し日本語指導等の適応指導を行うことを目的としていますが、概ね成果をあげていると評価しています。今後は、施策の成果を検証し、さらに積極的に推進することが必要です。	B

今後の取組み・改革の方針

より地域に開かれた学校づくりを行うため、公募による学校評議員の拡充するなど制度の運用を改善していきます。また、学校評価の新しいシステム作りとして、学校評議員との連携や内部評価と外部評価の更なる活用など、中長期的に取り組んでいきます。
 小学校全校で実施している英語活動については、中学校教育との円滑な接続のための教育プログラムなど、その実施方法を含め、研究していきます。

施策を構成する計画事業

	総合評価	頁	総合評価	頁
開かれた学校づくり	B	91		
国際理解教育の推進	B	93		